

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ワークランドそら			
○保護者評価実施期間	2025年1月 ～ 2025年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37名	(回答者数)	26名
○従業員評価実施期間	2025年1月 ～ 2025年1月31日			
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	大人の利用者の働く姿を見て、卒業後のイメージを持ってもらいやすい環境	同施設内でB型作業所（カフェの食事提供・接客）をおこなっていることにより、放デイを利用している児童が、卒業生の働く姿を見ることで、将来の就労のイメージや先輩からの助言を聞きやすい環境が整えられている。又、長期休みにはお弁当の配達やカフェでの就労体験を通して、やりがいや課題を見つけることができるメリットがある。	今後も継続して長期休みでのカフェのお仕事体験や、B型利用者さんとの交流、配達先での地域交流を通して社会的スキルの育成を図っていけるような機会を設けていきます。
2	活動部屋を2か所（1階、2階）に分けて、その児童に合った環境で過ごせる	施設の広さをいかし、学年や障害特性に応じて過ごしてもらえる場所を柔軟に提供できる環境を整えています。具体的には、1階は聴覚過敏な児童や落ち着いた環境を好む児童、高学年の児童の活動場所とし、2階は活動的で元気な児童や、低学年を対象とした児童の居場所として空間提供を行っています。	今後も個々の児童の特性に応じて柔軟に活動場所を提供していきます。又、年度ごとに見直しをおこないながら、そらを利用する児童が笑顔で楽しく過ごすことができるような環境を提供していきます。

3	イベントや季節ごとの活動が充実している。	お泊りキャンプや卒業遠足、季節の行事ごとや保護者交流会等毎月の行事ごとが充実している。又、毎月外出を実施して社会性を養う経験を積む機会が多い。その他、毎月の季節の制作で季節感を感じることができたり、活動時間の他自由時間を設けて児童同士で屋内遊びをする機会があり、自立性を養う経験を多く積むことが出来る。	今後もイベントや各種行事ごと、制作や外出等を通して将来必要になる社会性や自立を養う経験ができるような機会を設けることができるように努めていきます。
---	----------------------	---	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	館内のバリアフリー化が不十分である。	車椅子を使用する利用者がいても、室内の照明スイッチに手が届かない。トイレの入室時に使用中の有無がわからない（表示されない為）等、利用する児童に対して設備が不十分な所がある。	今後も様々な障害を持つ児童の利用が想定されているため、利用している児童に寄り添い、丁寧なヒアリングを心掛ける。又、必要に応じて改善できる部分は随時おこなっていく。
2	他施設との交流・地域との交流が少ない。	他施設との交流は年間の行事に組み込まれていない。下校後の営業時間が短く交流するには不足している。各放デイ事業所の営業時間がバラバラでタイミングが合わない。	今後は他施設と連携しながら、交流会等のイベントを年間の行事に組み込んでいけるか検討していく。
3			